

# Mobile型UKAの術後2-6年の 治療成績

富山県済生会富山病院

藤田健太郎 藤井秀人 吉田晃 外館幸司

**第51回北陸リウマチ・関節研究会  
筆頭発表者のCOI開示**

**筆頭発表者氏名：藤田 健太郎**

**演題発表に関連し、開示すべきCOI関係  
にある企業等はありません。**

# はじめに

当院で施行したMobile型UKA  
(Oxford<sup>®</sup> Partial Knee)の  
術後2-6年の治療成績について  
報告する



# 対象

2015-2020年に同一術者により施行され、  
術後2年以上観察可能であった内側型UKA

31例 33膝

# 患者背景

**31例33膝**

- ✓ **平均年齢** **73歳 (60-86歳)**
- ✓ **原疾患**
  - 変形性膝関節症 **27膝**
  - 特発性大腿骨内顆壊死 **6膝**
- ✓ **BMI** **25.3 (21.5-29.0)**
- ✓ **平均観察期間** **42カ月**

# 検討項目

- ✓ 手術前後の膝関節可動域
- ✓ 手術前後のFTA,HKA
- ✓ 術後合併症
- ✓ 脛骨コンポーネント周囲のradiolucent line
- ✓ 術後臨床評価 (JKOM, FJS-12)

**Result**

# 膝關節可動域

屈曲	術前	術後
	<b>138.4±8°</b>	<b>137.3±3°</b>
伸展	術前	術後
	<b>-2.8±3°</b>	<b>-0.3±1°</b>



# FTA, HKA

FTA	術前	術後
	<b>178.4±3°</b>	<b>175.2±3°</b>

HKA※	術前	術後
	<b>5.2±3°</b>	<b>1.9±2°</b>

※ 内反を正とする

# 術後合併症

---

外側OAの進行	2膝 (6%)
膝蓋大腿関節のOA進行	1膝 (3%)
インサート脱転	1膝 (3%)
皮膚壊死	1膝 (3%)

---

# — Radiolucent line (RLL) —

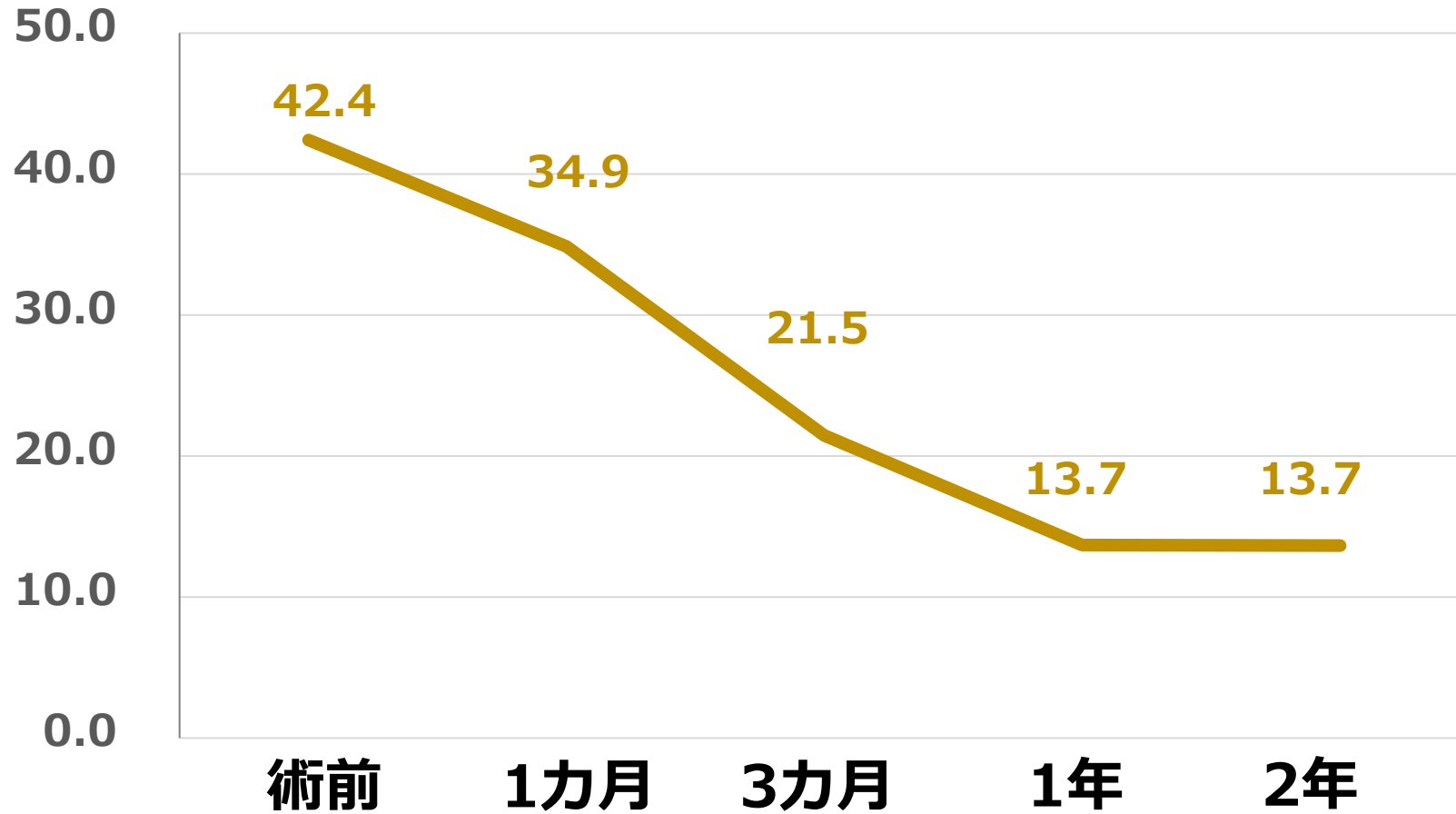
脛骨コンポーネント周囲に

9 膝 (27%)

インプラントのゆるみなし



# JKOM

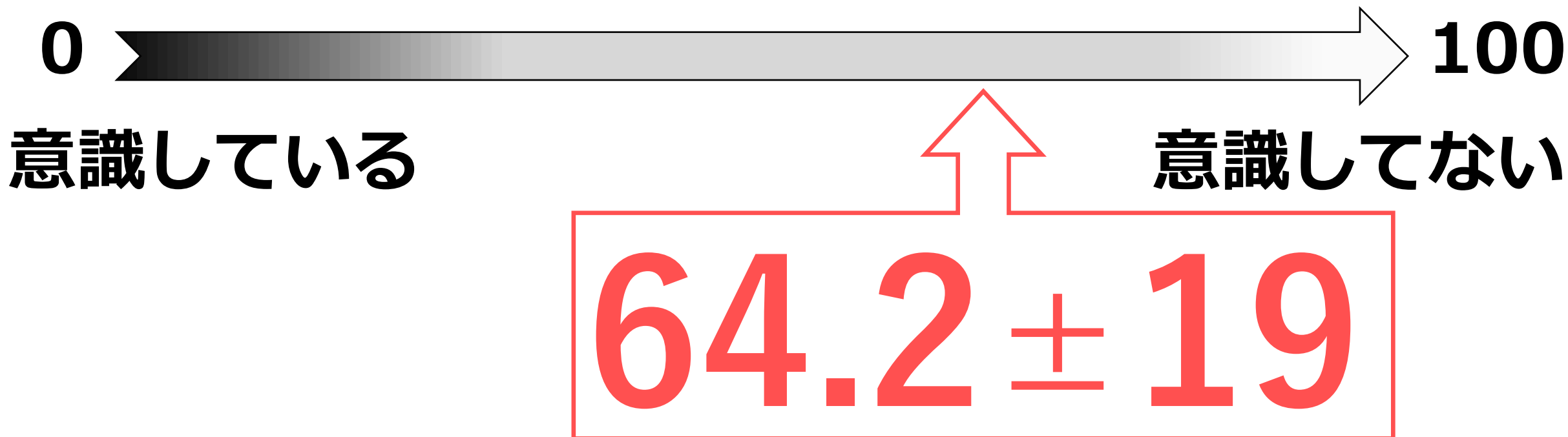


経時的な改善を認めた

# FJS-12

## Forgotten Joint Score

～どれだけ関節を意識して**いない**か～



# Discussion

# 内側型UKA術後アライメント

自験例

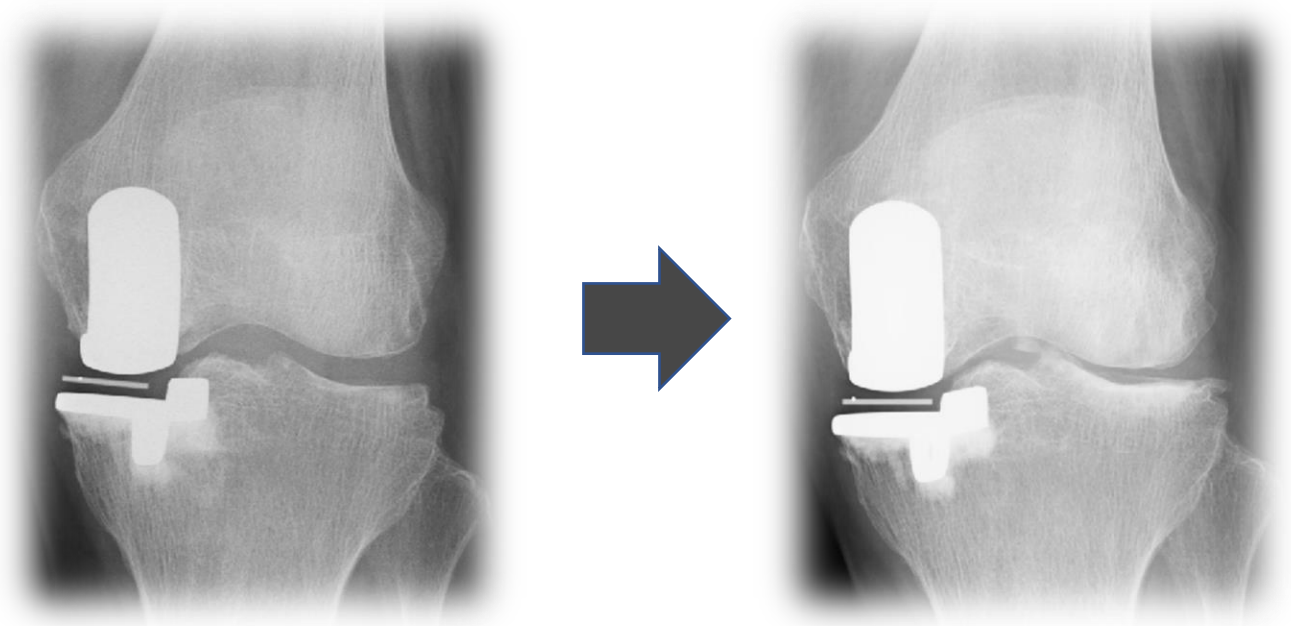
外反アライメント 3/33膝

→ **1**膝(HKA  $-2^{\circ}$ )で外側OAの進行

☑ 術後外反アライメント

→ **外側OA**リスク

Hernigou P, CORR, 2004



# 内側型UKA術後アライメント

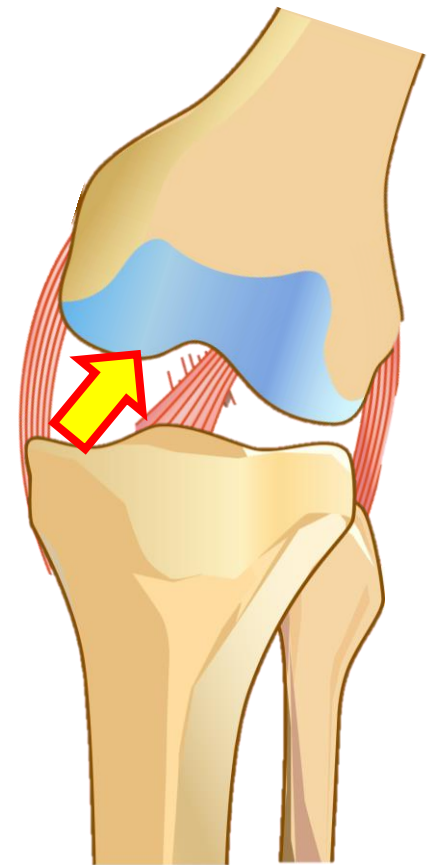
自験例

外反アライメント 3/33膝

→ **1**膝(HKA  $-2^\circ$ )で外側OAの進行

✓ 関節内矯正のUKAでの外反アライメント

→ **ACL**の過緊張で**外側**の圧迫力 ↑



Kuriyama S, Knee, 2021



# インサート脱転

現在までの当科での脱転率 **1/62膝 (1.6%)**

- ✓ 発生率は**0.7%**  
(n=1376 平均観察期間 3.5年)

# インサート脱転

## ✓ 原因

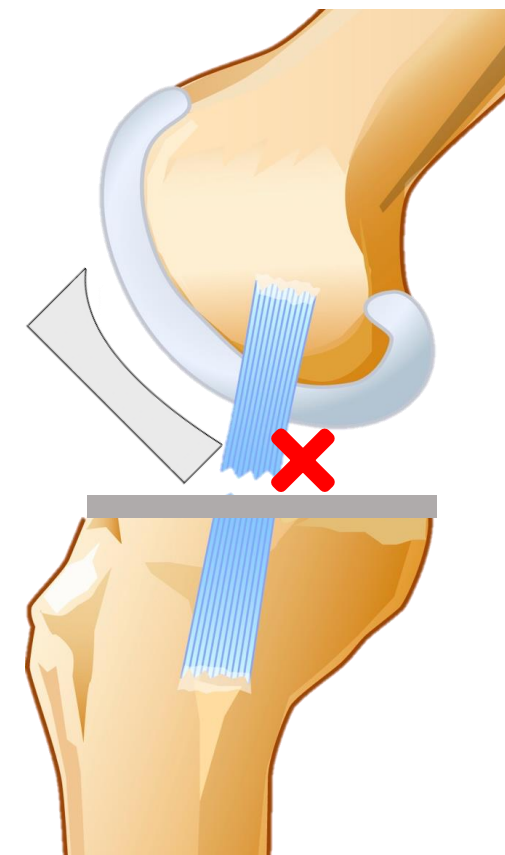
---

- ①. 脛骨ベースプレートとベアリングの設置不全
  - ②. 屈曲伸展ギャップの不適合
  - ③. 術中のMCL損傷
  - ④. 大腿骨側の骨棘
-

# インサート脱転

## ✓ 原因

- ①. 脛骨ベースプレートとベアリングの設置不全
- ②. 屈曲伸展ギャップの不適合
- ③. **術後5カ月でMCL損傷**
- ④. 大腿骨側の骨棘



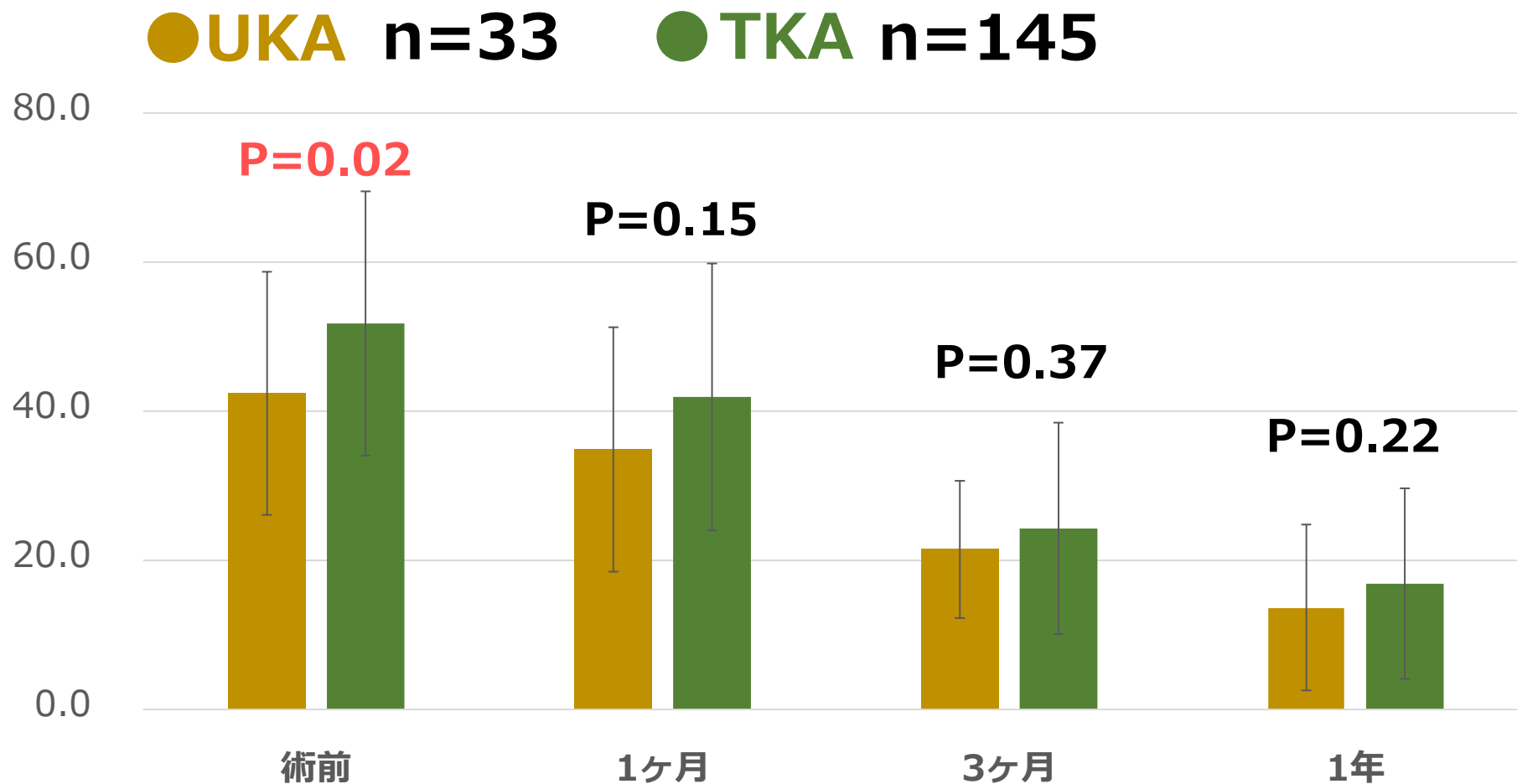
# UKAにおけるRadiolucent line

自験例

RLLは9/33膝(27%)で出現

- ✓ 31/36膝(86%)で出現
  - ゆるみ症例無し(平均観察期間7.1年)
  - 可動域や臨床スコアも影響なし
- ✓ 脛骨側のゆるみは追加手術の原因となる
  - RLLの長期的な経過観察は必要

# JKOM (UKA vs TKA)



藤井, JOSKAS, 2021  
藤井, JSRA, 2022

UKAがTKAより低く経過

# UKAのFJS-12報告例

報告者(年)	症例数	FJS-12	平均年齢
Thienpont ら (2014)	51	76	61.8
Zuiderbaan ら (2015)	65	74	66.6
James R Gill ら (2021)	106	65	67.8
飛田 ら (2017)	51	64	71.3
藤田 ら (2019)	51	63	71.6
四方 ら (2022)	78	55	77.2
<b>自験例</b>	33	64	73.0

# Conclusion

- ✓ **Mobile型UKAの術後成績は良好であった**
- ✓ **Radiolucent lineが出現しても  
ゆるみはみられず、  
追加手術を必要としなかった**